



津市文化創造事業「森の劇場プロジェクト」

森からの便り No.2

2016年8月25日発行

12月にプレゼン公演開催が決定!

森の劇場プロジェクトの目玉事業である、市民参加型「ようこそ森の劇場へ」のプレゼンテーション公演が本年12月25日(日)にしらさぎホールで開催されることが決まった。当初は2016年3月に予定していたが、会場の都合で開催時期が早まった。

当日はオリジナル作品「田の詩 山のいのり」(脚本：西田久光/演出：山本賢司)のハイライトを中心に、バレエで描く飛び出す紙芝居「せかいのはてってどこですか?」～パフォーミングアーツってなんだ～、後半では2012年、2014年に次いで3回目となる舞台上生討論会「一緒に本気!で考えよう～地域と教育と芸術の繋げ方～」を行う。討論会には前葉泰幸津市長をはじめ、太宰久夫氏(玉川大学芸術学部パフォーミングアーツ学科教授)、後藤洋子氏(三重大学教育学部運動学教授)、津市教育長らの参加を予定している。

同公演はプレゼンを目的とするため入場無料(要整理券)で実施予定。

グループワーク一旦解散へ

5、6月の約2ヶ月間にわたり意見交換を行ってきた3つのグループワーク「市民劇場推進チーム」「地域との連携・近隣文化施設との連携推進チーム」「子ども地域芸術教育推進チーム」は、12月のプレゼン公演に向けての具体的な作業

が進むことから一旦解散し、プレゼン公演の成功を目指すことにした。また、「市民劇場推進チーム」はその表記を「津・子どもパフォーミングアーツ」に変更することとなった。同事業が「津青少年文化芸術祭」の見直し事業であり、小学生に焦点をあてるものとしたいとの狙いからである。残る2グループで話し合われた意見については、3名の運営メンバーがその内容を反映させ基盤作りを行うことになる。

森劇ミーティングとして再始動

井戸端会議としてスタートした「29日の会」は、その開催が現状として毎月29日に開催できないことから「森劇ミーティング」と改称、今後も試行錯誤を繰り返しながら臨機応変に取り組んでいく。なお、2016年度の日程を次の通り決定した。会場はいずれも津市白山総合文化センター内。時間は原則19時から21時頃まで。

【2016年度ミーティング日程】

- 7月29日(金) 和室
- 8月29日(月) 多目的室
- 9月29日(木) 多目的室
- 10月26日(水) 多目的室
- 11月30日(水) 第4楽屋
- 12月26日(月) ※未定
- 1月30日(月) 多目的室
- 2月27日(月) 多目的室
- 3月29日(水) 多目的室

※諸事情により変更の可能性あり。

森劇ミーティング、プレ公演と連動

12月のプレゼン公演に出演する役者は、演出家の希望を受け、森劇メンバーが担うことになった。これに伴い7月から10月までの森劇ミーティングはプレゼン公演と連動し、19時から「体創教室」、20時から「歴史くらぶ」の2本立てで行われる。

「体創教室」では舞台表現の手助けとなるよう身体と歌唱表現にこだわった内容を用意している。プログラムは以下の通り。

7月29日 身体の内側の捉え方

8月29日 身体教養ワーク

9月29日 ※未定。提案募集。

10月26日 “一志の子守歌、歌ってみよう

「歴史くらぶ」では、「田の詩 山のいのり」を地域と結び、地域の宝となる子どもたちを育てるための関連教養講座として「暮らしに生きる山の神さま」と題して、中村光司氏（津市学芸員）に講師をお願いしている。現代では既に失われつつある言い伝えや民話、歌などが多くあり、それらを掘り起こしていく。

第1回歴史くらぶ開かれる

7月29日の森劇ミーティングでは、これまでの経過と今後の取り組みについての報告が行われた。※前述の通り。



後半は「歴史くらぶ」第1回目の講座が開かれ、津市内（片田地区）で傳承されている山神神事を

映像で紹介しました。講座内容の中、神事の準備は書面としてマニュアル等を作り残さず、人から人へ共に実践する中で傳承するという点は、データ化に重点を置く現代社会において、アナログなものにしか存在しない一種の温もりを再発見できるという気付きがあった。

教育委員会と初協議開かれる

8月19日、津市教育委員会との初協議が開かれ、それぞれの立場を意識しながらも忌憚のない意見交換が行われ、今後の方向性を見据える情報収集ができた。

意見の違いは対立ではなく、手法の違いであることを認めなければならない。



（小柴信之・記）

◆お知らせ◆

・通信「森からの便り」は月1回を目処に発信する予定ですが、しばらくは不定期になってしまうかもしれません。気長に見守って下さい。

・ホームページは暫定的に長野さんのポプラ身心育成研究会 <http://popra.jp> の中に「森劇プロジェクト」の頁を設けました。

ぜひご覧下さい。また、松尾さんに作成していただいたQRコードを読み込んでの利用も出来ます。



◇編◇集◇後◇記◇

データ化の現代においては物事を間違いなく正確に伝えることが求められる。歴史くらぶで紹介された神事や、民謡、子守歌は“傳承”に意味がある。口伝の課程で微妙な違いが生まれる。傳承者による“色づけ”が時代や環境によって変化しながらオンリーワンを生むのだ。それは画一化ではなく違いを認め合う姿勢に繋がっていく。